

| | |
|------|----------------|
| 作成日 | 2025 年 6月 18 日 |
| 研究科名 | 公共圏創成専攻 |

自己評価：S・A・B・C

評価項目① 過年度からの改善・向上の取り組み

- (ア) 昨年度の自己点検・評価において各組織で記述した課題・改善方策や、内部質保証推進会議からの提言を踏まえ、現時点における取り組み状況・成果について記載してください。
- (イ) 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な指導・支援・フィードバック等を行い、それによって学生が意欲的に学習できているか。学生への指導や支援、成績評価やフィードバック等の取組状況を具体的に説明してください。また、期待した効果が得られているか、各種アンケート結果等をもとに検証のうえ、記載してください。

参照資料

- ・ 令和 6 年度自己点検評価シート
- ・ 令和 6 年度内部質保証推進会議からの提言
- ・ 第二期中期計画および R7 学長方針
- ・ 大学院生アンケート
- ・ 卒業時アンケート（大学院）
- ・ 資格取得や進路就職状況
- ・ 各種会議の議事録等

【現状分析】

(ア) 前年度の自己点検・評価においては、達成すべき学習成果の明確化、適切な授業科目の設置・編成、適切な授業形態・指導、適切な単位認定・学位授与、学習成果の把握と評価、教育過程・内容の自己評価・改善等についてはおおむね良好であるという結論であったが、(1)学生受け入れの人数減少、(2)教員組織の整備、(3)学生どうしの学びあいの機会などの問題が浮かび上がった。

(1) 前年度修士入学生は 0 であったが、本年度は受験・合格ともに 2 名となった。昨年度特に懸案とされた外国人留学生については、志願者および合格者が 1 名あったが、入学はなかった。なお、修士課程については 2023 年度は 2 名受験・合格、2024 年度は 0 名受験、博士課程については 2023 年、2024 年、2025 年と 3 年連続で受験者なしである。広報および学部生への大学院生の可視化の強化がさらに必要である。対策として、最近やっていたなかった大学院院試説明会を開く（7 月）。

(2) 教員組織の整備およびカリキュラムの見直しについて、2024 年度および 2025 年度初頭は学部改組についての議論を優先せざるをえなかったため、進展しているとは言いがたい。学部改組の目処がつつきつつあるため、7 月および 9～11 月に集中して議論する予定である。

(3) 在学生が少数のために難しいとされてきた学生どうしの学びあいの機会については、例年は年 1 回であった院生 (M1) 発表会を、本年度は年 2 回開催し、多くの研究科教員をまじえた共同的研究指導を目指している。また修士に関しては環境良好な院生研究室での会話等を期待しており実施されている。

(イ) 2024 年度の修士課程卒業生アンケートに関しては、卒業生・回答者が 1 名であり、研究科

としての傾向を見ることはむずかしい。卒業者は知識や技能の点では比較的高い評価をしているが、意見調整の能力や問題解決のための適切な計画を立てる能力の点で不満が残っているように見られる。これは前述の学生どうしの学びあいの機会が少なかったことに起因するものかもしれないので、学生数と交流の増加が課題である。なお、2025年度の学生アンケートに関してはカリキュラム・内容等については問題ないが、回答者（修士課程2・博士課程1）3名ともに授業時間外での学習時間が10時間以内となっており、授業時間とのかねあいはあるにせよ、こうした自主的学習時間で十分であるのか研究科FDで検討すべきである。

【成果】

(1) 学生確保に関しては定員6名のところ、2名の確保にとどまっている。

【課題】

現代社会研究科での教育に関しては順調におこなわれていると評価できるが、学部改組についての検討を優先したため、研究科（修士課程）カリキュラムの見直しが遅れており、早急に検討をはじめめる必要がある。上述のように学部改組にともなう学部カリキュラムの検討を優先したため、研究科（修士課程）カリキュラムの見直しが遅れている。早急に検討をはじめめる必要がある。

【改善・発展方策】

学生確保については、広報活動の上本年度の入学希望者数を見ることにしたい。組織およびカリキュラム見直しについては、データサイエンス学部の大学院計画との関係を含め、検討をはじめている。